No.２７６５

関東最大のブナの森　雪上トレッキング＆スキー

玉　原　高　原

実施日　2016年３月６日(日)～7日(月)
天　候　６日　晴れ／曇り　７日曇り
リーダー　伊藤　久雄
参加者　若村貴世子、若村勝昭、涌井良明、山崎冨美恵、白石恵美子、中村友子、伊藤久雄、宇野輝代、宮崎敏男、佐藤聡美　計１０名
費　用　JR10,780円(東京起算)🚗4,000円
宿泊費8,500円　リフト500円
合計23,780円
タイム　６日　上毛高原駅(8:54~9:00🚗)ﾂﾂﾐ・ｽｸｴｱ(10:00~11:00)第２リフト(11:40)鹿俣山(11:40~12:45昼食)鹿俣山(12:45)ﾂﾂﾐ・ｽｸｴｱ(15:00)
７日　ﾂﾂﾐ・ｽｸｴｱ(8:35)ブナ平(10:50)長沢三角点(11:20)玉原湿原(11:50~12:20昼食)ﾂﾂﾐ・ｽｸｴｱ(13:45~14:25🚗)上毛高原駅(15:30)

６日　今回もリーダー泣かせの日替わり天気で大いに悩まされましたが上毛高原駅に着くと何とか持ち直し明け方まで降っていた雨も止み気温も高くお天気になりホットした。

タクシーで玉原高原まで行きペンションで準備をし、緩やかな坂道を少し歩いて第２リフトに乗る。

リフトの下ではスノーボーダー気持ちよさそうに滑っている。右眼下にはブナ林が広がり左は雪に覆われた谷川連峰の眺望が広がる。終点でスノーシューを履き鹿俣山を目指し歩き始める。

なだらかな尾根をゆっくりと登って行く。山頂直下になると短い急斜面になり踵のヒールリフトバーを上げ登って行くが雪が湿って爪もあまり効かず難儀するが直ぐに鹿俣山山頂に着く。山頂では昼食どきで大勢の人たちでにぎわっていた。

山頂からは右に谷川連峰、手前眼下に玉原湖、去年登った尼が禿山、遥か遠方に妙義山、左に皇海山、正面に赤城山、北には上州武尊等の山々がブルーグレイの空に墨絵の様な素晴らしい眺望が広がる。早々にキムチ鍋の準備をする。眺望を眺めながら私食べる人、私作る人、私雪洞を掘る人皆、思い思いに楽しんだ。

最後に雑炊を腹いっぱい食べ膨らんだお腹を抱え下山をする。

山頂直下の急斜面、腹のせいか雪のせいか転倒者続出。広いブナの森を右の方から聞こえてくるスキー場の音楽を聴きながら尾根を下る。

ペンションはこぶし会で貸し切りだ。食事の時間まではたっぷり時間は有るので薪の暖炉を囲みおしゃべりをしたり、風呂はちょい温めの良い湯加減につい長

湯をしてしまった。夕食はフランス料理の様なコース料理でグルメのＷ・Ｋさんの様な食レポートは出来ませんが味、量ともに文句なしの美味しさでした。

７日　今日は玉原高原に詳しいペンションの主人に頼んでガイドをお願いした。昨日と同じコースを第２リフトまで行きそこを横切りブナの森に入って行く。

直ぐに銅金沢の源頭に着く。昔銅や金が取れたのでこの様な名前がついたらしい。まだ雪に覆われている。

小さな尾根や沢を横切りながらブナ平に向かって歩を進めて行く。同じ様なブナの森の景色がずっと続きどこがブナ平か良く判らない。雪原を見渡しながら歩いて行くと時々カモシカやキツネの足跡が、樹上を見上げるとクマが食事をした後が残る熊棚（クマが枝ごと折ってナラやミズナラ、ブナなどの実を食べその枝をお尻に敷いたために出来る）が見え、根元には無数の爪痕が残っている。一見すると熊棚に似たヤドリギ（種子には粘着性が有り鳥が排泄したときに幹や枝に付着して分布を広げている半寄生植物、花言葉は「私にキスして」）も多数みられる。オオカメノキの冬芽がウサギに似ていて可愛らしい。三角点を通過すると一気に玉原湿原に降る。

去年休憩をしたときに有ったウッドデッキがすべて雪に埋まっていた。少し先で昼食をとる。このまま下って道路に降りても雪がないので山を北東に横切る感じで小さなアップダウンを繰り返し、所々沢の水が顔を出している所を注意してまたぎ進む。サルナシ、ヤマフジ、ツルウルシ、ツルアジサイの蔓も多くみられる。しばらく歩くと第２リフトの有る所までたどり着き其処からペンションに戻った。オーナーのシャレ混じりのユーモアの有る説明を聞きながら楽しい１日を過ごす事が出来ました。

荷物が多いのでもう一部屋欲しいと言う要望に、前日忙しくて掃除をしていなかったらしいが一番良い部屋をベットメーキングにお風呂掃除と時間をかけて用意してくれ、又翌日の突然の朝食の時間の変更にも快く応じてくれたご主人に大変感謝です。夕食も朝食も大変美味しかった。初めてのキムチ鍋もベテラン主婦揃いでスムーズに行き助かりました。ペンションも当たり大満足のスノーシューでした。有難うございました。

（記＆写真・伊藤　久雄）
（写真提供・涌井　良明）